

エ・のり糸状体培養と人工持苗

	糸状体培養				人工採苗網	
	水試	共同施設	トロ箱	計	貝殻使用数	種付網
	千枚	千枚	千枚	千枚	枚	千枚
33	120	250	500	870	10~15	58
34	220	870	4,000	5,090	10~15	≒250
35	220	900	7,500	8,620	15~20	≒355
36	220	1,100	9,000	10,320	15~20	≒423
37	100	1,400	15,000	16,500	2.0~2.5	≒675
38	100	1,600	20,000	21,700	2.5~3.0	710
39	100	1,800	21,500	23,400	2.5~3.0	715
40	100	2,000	21,500	23,600	2.5~3.0	720

オ・のり浮流し養殖について(普及状況)

年度	面積	角数	さく数	生産枚数
	ha			千枚
35	25	100	1,000	1,200
36	100	400	4,000	10,000
37	350	1,500	15,000	39,000
38	520	2,100	21,000	20,000
39	610	3,000	28,000	30,000
40	650	4,000	43,000	5,500

のり種付時期前後の各地先の海況

地先 項目 月日	三谷地先21年平均			三 谷 地 先			大 崎 地 先			宮 崎 地 先		
	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重
40年9月												
15				27.6	25.2	21.8	27.0	25.0	20.0	25.0	24.0	20.5
16				27.2	25.0	15.6	27.0	25.0	20.0	24.5	23.5	20.0
17				27.0	25.2	20.8	25.0	26.0	20.0	26.0	24.5	18.5
18				24.2	23.8	19.4	26.0	26.0	10.0	23.5	22.5	20.5
19							23.0	25.0	6.0	21.0	22.5	20.0
20				25.4	23.2	16.2	23.0	26.0	8.0	24.0	22.5	20.5
平 均	26.4	26.2	19.7	26.2	24.4	18.7	25.1	25.5	14.0	24.0	23.2	20.0
21				24.6	23.8	17.8	25.0	26.0	8.0	23.0	22.5	15.0
22				25.4	24.4	20.0	25.0	26.0	10.0	22.0	23.0	14.0
23							21.0	24.0	12.0	20.0	23.0	19.5
24				24.0	23.2	20.7	23.0	23.5	13.0	21.5	23.0	19.0
25				20.0	22.4	20.5	17.0	24.0	14.5	19.0	22.0	18.0
26							23.0	25.0	15.0	24.5	22.5	20.0
27				23.8	24.0	19.9	21.0	23.0	19.5	24.0	23.0	20.0
28				22.6	22.6	19.6	18.0	22.0	16.0	22.0	23.0	19.0
29				19.5	22.4	23.1	18.0	21.0	16.0	19.5	21.0	21.0
30				20.6	21.4	18.3	25.0	24.0	17.5	21.0	22.0	20.5
平 均	24.0	24.2	20.3	22.5	23.0	19.9	21.6	23.8	14.1	21.6	22.5	18.6
10月												
1				22.0	21.2	18.7	20.0	22.0	16.0	23.0	22.0	21.0
2				21.8	21.9	18.4	21.0	23.0	18.0	22.0	21.0	19.5

地先 項目 月日	三谷地先21年平均			三 谷 地 先			大 崎 地 先			宮 崎 地 先		
	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重
3							22.0	23.0	15.5	22.0	21.0	20.5
4				20.6	22.2	19.0	18.5	23.0	15.5	21.0	21.5	19.5
5				21.2	21.6	18.8	17.0	22.0	15.5	23.0	21.5	20.0
6				18.6	21.0	19.2	19.0	22.0	15.5	18.0	21.0	20.0
7				21.4	22.6	21.6	18.0	22.0	17.0	20.0	21.0	20.0
8				19.0	22.2	22.5	15.0	21.0	19.5	19.0	20.5	22.0
9				17.8	20.0	21.0	16.0	21.0	18.5	21.0	19.5	21.0
10				17.8	21.0	23.3	16.0	20.5	17.0	20.0	19.5	22.0
平均	22.0	22.4	19.3	20.0	21.5	20.2	18.2	21.9	16.8	20.9	20.8	20.5
11				19.7	19.4	20.8	19.0	20.5	19.0	19.0	18.5	22.5
12				19.4	19.4	20.8	18.0	20.5	20.0	19.5	19.0	21.0
13				19.4	19.2	21.8	17.5	20.0	20.0	17.0	19.0	22.0
14				17.5	18.8	21.7	14.5	20.0	18.0	17.0	18.0	21.5
15				19.0	19.1	21.3	15.0	20.5	18.0	19.0	18.5	21.0
16				16.9	18.9	22.3	14.0	19.0	13.0	18.0	19.0	21.5
17				16.0	18.5	22.7	14.0	18.0	15.0			
18				17.0	18.2	22.1	16.0	18.0	15.0	16.0	18.0	22.0
19				16.4	18.2	22.6	13.0	17.0	15.0	14.0	17.5	21.5
20				18.0	18.6	22.7	16.0	18.0	15.0	18.0	18.5	22.0
平均	20.4	18.8	20.4	17.9	18.1	22.8	15.7	19.1	16.8	17.5	18.4	21.6

のり漁期中の各地先の平均気水温と比重

月	地名 項目	三谷地先 21ヶ年平均			三谷地先			大崎地先			宮崎地先		
		気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重
40年 4	上	13.9	13.0	21.0	10.7	9.5	24.1	8.3	9.7	19.9	10.7	8.7	24.0
	中	16.0	15.0	19.5	13.9	10.9	23.8	11.0	11.7	22.6	14.1	10.0	24.0
	下	16.2	16.4	19.4	14.0	13.0	23.5	11.6	12.9	20.8	14.2	11.3	23.6
5	上	19.0	18.4	19.5	16.9	15.7	20.9	15.2	15.1	21.1	15.9	14.7	23.9
	中	19.9	19.7	21.2	19.8	17.9	22.2	19.9	17.5	20.3	19.9	17.8	22.4
	下	21.8	21.1	19.8	21.7	20.1	17.0	20.8	19.8	16.2	21.0	18.9	20.0
6	上	22.4	22.3	19.4	23.0	21.9	19.1	25.2	22.8	16.5	22.6	20.5	20.6
	中	23.3	22.4	19.1	23.7	23.4	19.8	23.2	23.5	13.3	23.5	22.2	19.9
	下	24.5	24.4	17.7	24.5	24.1	13.5	24.6	24.9	14.4	23.9	23.2	16.6
7	上	26.2	25.7	18.0	25.2	25.5	15.4	23.3	26.1	13.2	23.9	24.2	16.0
	中	27.4	27.8	19.5	28.4	27.2	17.4	29.4	28.7	13.8	26.9	25.5	17.4
	下	27.6	28.4	13.4	27.4	27.6	16.1	26.8	28.6	13.2	27.3	26.0	16.0
8	上	29.8	29.6	20.2	30.0	29.9	14.8	31.8	29.5	16.0	30.0	26.6	19.0
	中	29.2	29.3	19.7	29.8	28.8	18.5	31.6	28.9	17.7	29.6	26.5	20.7
	下	28.6	28.0	13.0	27.7	25.8	19.4	26.2	26.8	18.9	27.0	21.6	21.0
9	上	27.4	27.2	20.8	24.1	25.6	20.7	22.0	25.6	19.5	23.9	23.6	21.0
	中	26.4	26.2	19.7	25.5	24.1	19.0	23.4	24.9	14.9	23.1	23.0	20.4
	下	24.0	24.2	20.3	22.5	23.0	19.9	21.6	23.8	14.1	21.6	22.5	18.6

月	旬	地名 項目	三谷地先 21ヶ年平均			三谷地先			大崎地先			宮崎地先		
			気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重
40年	上		22.0	22.4	19.3	20.0	21.5	20.2	18.2	21.9	16.8	20.9	20.8	20.5
	中	10	20.4	20.7	20.2	17.9	18.8	21.8	15.7	19.1	16.8	17.5	18.4	21.6
	下		19.0	18.8	20.4	17.9	18.1	22.8	16.2	19.1	19.0	19.3	17.6	21.9
11	上		17.3	17.6	20.9	18.9	18.0	23.3	16.0	18.7	19.3	18.3	17.6	21.9
	中		14.9	14.8	21.2	13.2	14.3	22.6	10.0	13.3	19.5	12.9	14.0	22.6
	下		13.5	13.6	20.7	11.9	12.6	21.8	9.5	12.1	19.5	12.9	13.3	22.7
12	上		10.7	11.0	22.6	9.0	10.8	23.0				8.5	11.4	22.6
	中		9.1	9.3	22.2	6.9	8.8	23.1				7.7	9.2	23.0
	下		8.5	8.4	22.2	7.8	8.0	23.2				7.3	9.4	23.7
41年	上		6.3	7.5	22.2	5.6	6.3	22.8	4.2	6.2	20.1	5.7	7.7	23.1
	中	1	6.6	6.5	22.8	6.3	6.3	23.2	4.3	6.0	20.4	6.8	8.0	23.6
	下		5.4	5.0	22.7	3.6	4.6	23.2	1.1	4.0	19.1	4.7	6.1	23.9
2	上		6.2	5.7	22.9	6.1	5.6	23.1	3.8	5.5	20.1	6.5	7.3	24.0
	中		6.4	6.2	22.7	7.7	6.0	23.3	4.9	6.4	21.0	7.5	7.8	24.2
	下		7.8	7.0	22.8	9.1	7.4	22.2	6.2	7.8	18.3	9.0	8.4	23.0
3	上		8.7	7.9	22.6	9.6	9.0	19.7	9.2	9.3	16.2	10.7	9.5	22.5
	中		10.1	8.9	22.3	11.2	9.6	19.8	9.3	9.5	16.7	10.5	10.8	22.4
	下		11.3	10.5	22.0	9.5	9.4	20.8	8.0	9.1	17.2	10.6	10.9	22.5

5. 漁村青壮年実践活動促進事業

(1) 事業の目的

本県の水産関係研究グループの経営および技術の改善向上を目標とした自主的実践活動を促進助長し、水産業全般の振興を図ることを目的とした。

なお、水産業改良普及事業と密接な関連を持つて実施し、相乗的な効果をあげるように留意した。

(2) 事業の内容

ア. 漁村青壮年活動実績発表大会

名 称	主要発表内容	開催場所 (会場等)	開催時期又 は開催期日	参加人員	審査員, 助言者
愛知の水産 研究発表大 会	漁村研究グループの 1ヶ年の自主的研究 活動の成果を発表さ せた。 大会は漁撈養殖、加 工、生活改善の3部 門にわけ、総合発表 形式とした。 なお、水産業に関す る新規資器材の展示 を併せ行なつた。	豊橋市	昭和40年 4月21日	約1,000人	審査委員長 県水産試験場長 審査員 県漁連会長 県農業技術課長 東京大学教官 県水産試験場 応用普及科長 調査研究科長 尾張分場長 内水面分場長 県水産課 技術補佐
	計	1回	延1日	約1,000人	延10人

イ. 漁業技術修練会

名 称 (種 類)	研修(講習) 内 容	開 催 場 所 (会場等)	開催時期又 は開催期日	参加人員	講師または依頼先
漁村研究グループ指導者研究会	水産一般教養 グループ活動 のあり方、水 産振興策関連 研修	蒲 郡 市	昭和40年 8月19日 9月21日 11月 2日 (3日)	52 76 120 延 248名	愛知県農業技術課 専技 山 田 銀 一 水産試験場 技師
漁業生産技術研修会	のり、わかめ 養殖技術関連 研修	蒲 郡 市	8月25日 ~8月28日 (4日)	延 462名	東京水産大 片田 実 東海区水研 須藤 俊造 内海区水研 斉藤雄之助 東大伊川津実験所 平野礼二郎 水産試験場 技師
	魚類養殖技術 関連研修	蒲 郡 市	昭和41年 1月10日 ~1月11日 (2日)	延 136名	東 大 笠原正五郎 伊川津実験所 平野礼二郎 新舞子実験所 平山 和次 三重県大 窪田 三朗 日本農産工業 庄司 圭吾
漁業経営技術研修会	のり経営技術 関連研修	幡 豆 郡 一 色 町 常 滑 市 豊 橋 市	昭和41年 3月17日 3月20日 3月23日 (3日)	延 580名	東大 伊川津実験所 平野礼二郎 東大 新舞子実験所 平山 和次 水産試験場 技師
合 計			延 12日	延1,426名	外部依頼講師他 延 14名

ウ、先進地技術導入

(ア) 先進地視察

視 察 地	視察技術の概 略	視察時期 および視察期日	日程	参 加 者	視察後の報告方法
神奈川県 横須賀市	ハイゼック ス製あなご かご漁業	昭和40年 6月28日 ～7月1日	3泊 4日	三谷、形原、西 浦漁業研究会4 名 引卒者1名	視察報告書を普及職員 研究グループおよび関 係先に配布するととも に研究集会に視察報告 を行なった。
福島県 相馬市	婦人グルー プ活動	昭和40年 9月7日 ～9月10日	3泊 4日	県漁協婦人部連 合会員4名 引卒者1名	
香川県 高松市	海産魚類養 殖	昭和40年 9月20日 ～9月23日	3泊 4日	幡豆地区、南知 多地区研究会員 4名 引卒者1名	
宮城県 気仙沼市	のり浮流し 養殖とわか め養殖	昭和40年 12月6日 ～12月9日	3泊 4日	県のり研究協議 会会員4名 引卒者1名	
香川県 丸亀市	のり室内入 工採苗との り共同加工	昭和41年 1月17日 ～1月21日	4泊 5日	県のり研究協議 会会員4名 引卒者1名	
熊本県 三角町 佐賀県 川福町	のり施肥と 加工施設	昭和41年 1月30日 ～2月3日	4泊 5日	県のり研究協議 会会員5名 引卒者1名	
計	6 班				

(イ) 導入試験

漁業振興委員会報告書

試験項目 (内容)	導入先進地	実施方法の 概 略	実施場所	実施時期 または期日	実 施 者	実施後の普及 方法の概要
あなご籠漁 業普及試験	神奈川県横 須賀漁業協 同組合研究 会	竹製あなご籠 と横須賀式 あなご籠の改 良型との比較 試験を行ない、 その結果を確 認して普及し た。	蒲郡市地 先海面お よび三河 湾	昭和40年 8月～昭和 41年3月	技師 横井時夫 技師 原田隆治 (蒲郡市担 当普及員)	試験結果を報告 書に収録して配 布するとともに 研究協議会、研 究集会を通して 普及した。

なお、先進地視察報告と、導入試験結果は、別冊「漁村青壮年育成対策事業による先進地視察報告書・昭和41年3月発行」に集録して、研究グループと関係先に配布した。

(4) 漁船運航技術修練会

修練会の名称	修 練 会 の 内 容	開催場所 (会場等)	開 催 時 期 または期日	参加人員	講 師 依 頼 先 および講師名
漁船運航 技術修練会	航海修練(A)	宝飯郡小坂 井町 平井	昭和40年 5月14日～20日 7日間	66人	日本船舶職員養成協会 東海支部 中村信一
		宝飯郡小坂 井町 伊奈	昭和40年 5月14日～20日 7日間	64	“ 河口俊巳知
		知多郡美浜 町 野間	昭和40年 8月4日～10日 7日間	70	“ 中村信一
		豊橋市 前芝	昭和40年 8月5日～11日 7日間	49	“ 河口俊巳知
	小 計	4 回	28日間	延1,743人	延 28人
	無線修練(B)	知多郡南知 多町 師崎	昭和41年 1月22日～28日 7日間	74人	名古屋工業大学 石井孝三 豊浜無線局長 石黒正一
小 計	1 回	7日間	518人	延 13人	
合 計	5 回	延 35日間	延2,261人	延 41人	

6. 農林水産航空事業合理化促進試験

目的

前年度発芽促進試験を3ヶ所において実施したが、非常に有効な結果がでたので、その効果の経済性と能率を再試験した。

(1) 散布方法および試験方法

ア. 試験場所

幡豆郡一色町地先(添付図中①)

常滑市地先 (// ②)

イ. 散布時期薬剤量および試験時期、面積、薬剤等

場 所	散 布		試 験	
	時 期	薬 剤 量	時 期	面 積
一 色 町	10月30日	4,520Kg	10月26日	100ha
	11月2日 18日		~11月1日	
常 滑 市	11月3~4日	1,200Kg	11月3~8日	100ha
計		5,720Kg		

微量要素キレート剤

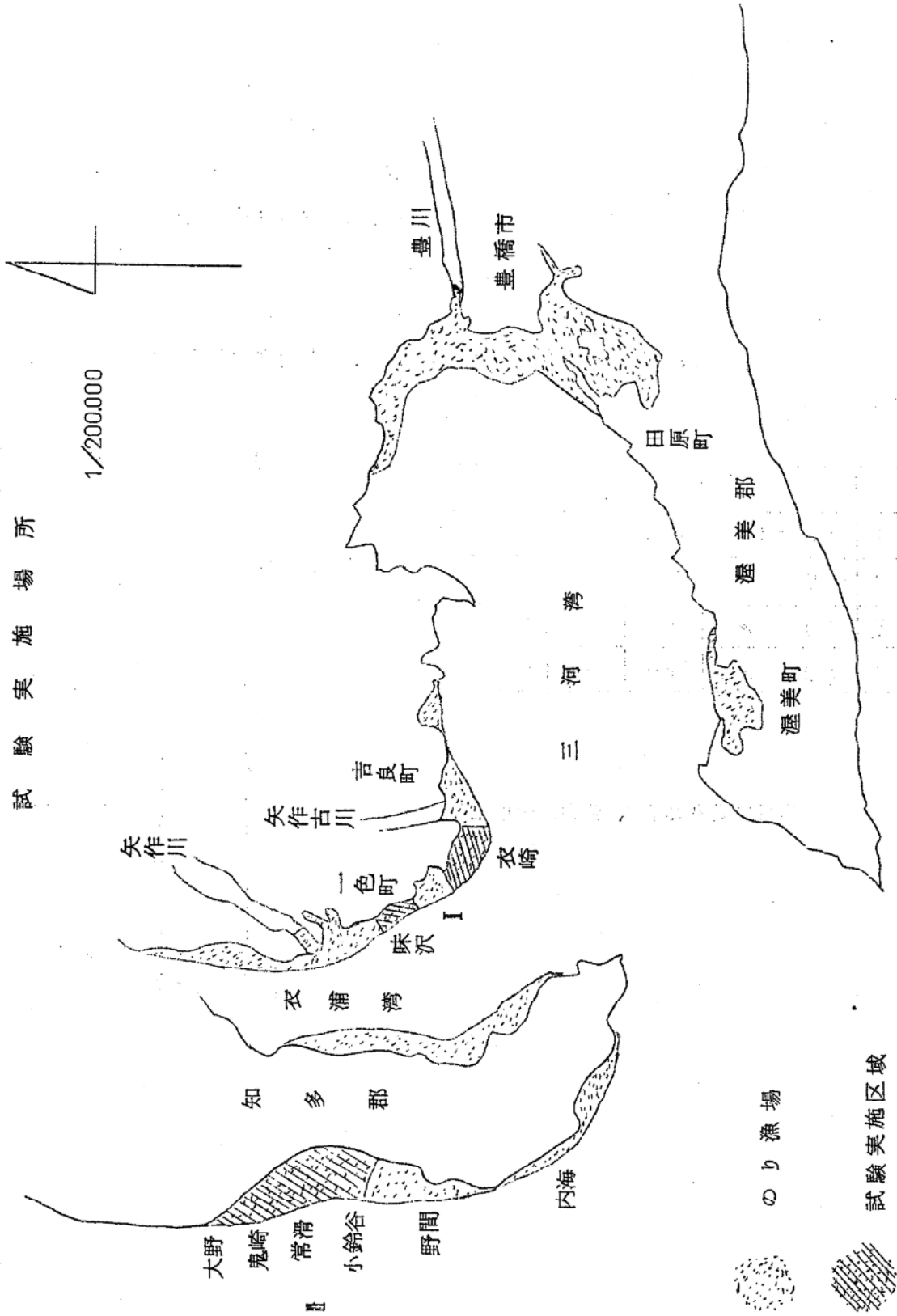
成 功	割 合
クエン酸鉄アンモン	4.3
塩化マンガン	2.8
塩化亜鉛	0.6
塩化コバルト	0.3
硫酸銅	0.6
モリブデン酸ソーダ	0.4
E . D . T . A	11.0
珪 藻 土	80.0
計	100.0%

(扶桑化学玄洋工業)

散布濃度は海水1m³当り有効成分120mgとし、薬剤中の有効成分は20%であるので、600mg/m³となる。

試驗實施場所

1/200,000



(2) 試験結果

ア. 落下分散調査

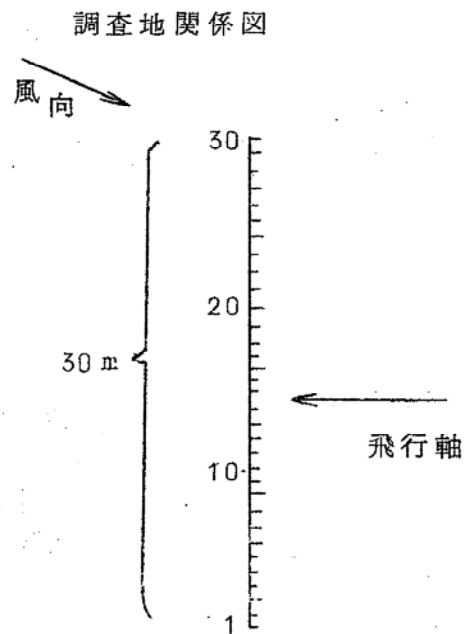
粉剤を散布する場合の飛行高度と散布巾の関係を調査した。

- (ア) 調査時期 昭和41年2月21日
- (イ) 調査場所 名古屋市 庄内川河川敷
- (ウ) 使用機種 ベル47 G-2A型 (G-2A用ダスターキット装着)
- (エ) 使用粉剤 タルク (200メッシュ)
- (オ) 調査方法

高度、速度、シャッター開度をかえて散布し、H板を飛行軸に直角に1m間隔に並べ、落下状況を観察した。その飛行諸元は次のとおりである。

	速度	高度	シャッター開度
1	40 mile/h	5m	3/4
2	40 //	5	4/4
3	40 //	10	3/4
4	40 //	10	4/4

当日の気象状況は、風力は西北西1。



(カ) 調査結果

回	高度 5 m 開度 3/4	高度 5 m 開度 4/4	高度 10 m 開度 3/4	高度 10 m 開度 4/4
1	1	7	8	1
2	1	8	8	1
3	1	8	8	1
4	6	8	8	1
5	6	8	8	1
6	7	8	8	2
7	7	8	8	5
8	7	7	8	6
9	7	8	8	6
10	7	7	8	6
11	7	8	8	7
12	7	8	8	7
13	7	8	8	8
14	7	8	8	8
15	7	8	8	8
16	8	8	8	8
17	8	8	8	8
18	8	8	8	9
19	8	8	8	9
20	8	8	8	9
21	8	8	8	9
22	8	8	8	9
23	8	8	8	9
24	8	8	8	9
25	8	8	8	9
26	8	7	7	9
27	7	7	7	9
28	7	6	7	9
29	7	6	7	9
30	7	6	7	9

H板の観察結果は上記のとおりであるが、高度5～10m、開度 $\frac{3}{4}$ 以上であれば、分散状況は大体同程度で30mの巾に落下する。

イ. スケルトネマ培養

(ア) スケルトネマ種

東海水研より6月移殖後、ミツケル改良液で培養してきたもの

(イ) 試水

航空施肥漁場において、直前、直後、施肥後10分経過時、30分経過時に採水した試水をガラスフィルター(G-3)で口過した後、0°C前後で保蔵した。

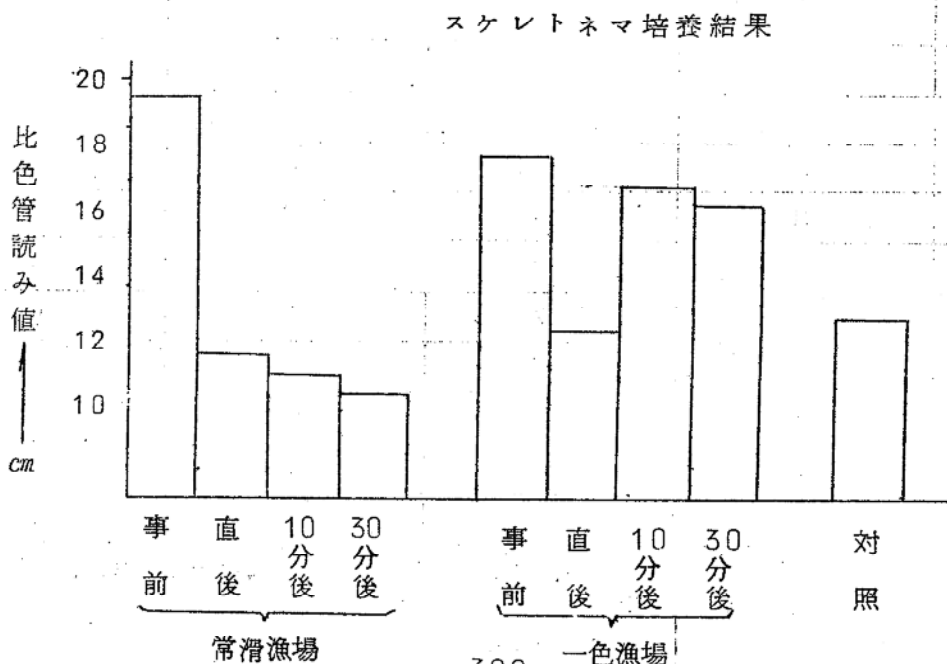
(ウ) スケルトネマ培養

◎ 培養方法

試水を300cc容フラスコに100ccとり、スケルトネマ種培養海水を5cc添加し18°C恒温室において白色蛍光灯(10W4本)30cm下5000Luxの照明で5日間培養した。この培養期間中午前、午後に各1回振とう攪拌を行ない、また培養位置をその都度変えた。なお、種スケルトネマ培養海水中にスケルトネマは、約15700個体/cc、1ヶ体平均3.2Cellsで約50,000Cells/cc認められた。

◎ 培養結果

上記の方法で5日間培養した試水を内径3.0cm、高さ30cmの比色管にて、底にABのプレートをおき、プレートの文字が読みとれない高さを読み、スケルトネマ培養試水のスケルトネマの密度を測定した。したがってスケルトネマの培養濃度が濃ければ読みとり数字は少なく、薄ければ読みとりの数字は大きくなる。この測定の結果を次の各図表に示す。



スケルトネマ培養結果

試 水		培 養 ビンNO	比 色 管 読 み 値	平 均 値	摘 要
常 滑 漁 協	事 前	1	19.0		
	〃	2	20.0	19.5	
	直 後	3	10.9		
	〃	4	11.4	11.2	
	10分後	5	11.0		
	〃	6	10.5	10.8	
	30分後	7	9.5		
	〃	8	10.5	10.0	
一 色 漁 協	事 前	9	16.5		
	〃	10	17.0	16.8	
	直 後	11	12.8		
	〃	12	11.4	12.1	
	10分後	13	(30以上)		増殖しなかつたので、
	〃	14	15.8	15.8	これはとり除いた。
	30分後	15	16.5		
〃	16	14.0	15.3		
対 照	三谷沖海水	17	11.0		
	ミツケル改良液	18	14.5	12.8	

ウ、二次芽の発芽調査

(ア) 幡豆郡一色町の調査結果

A 目 的

微量要素キレート剤を散布し、二次芽の発芽の促進効果を追求するため、無散布区との比較を行なった。

B 調査時期

11月2日～11月8日 7日間

C 調査場所

幡豆郡一色町衣崎漁場試験区

D 調査方法

ポリエチレン500D、粗面単糸を施剤前に散布した。計数に当つては数視野を平均し、 $\times 6.5$ を1cm当りとした。芽数の少ないものは、10視野以上を計数し、その中の多いもの数視野の平均を出した。

E 調査結果

NO	漁場名	芽数(1cm)	摘要
1	伍保 10号 238	1,020	2~6 Cell
2	〃 11 193	611	
3	〃 11 218	540	
4	〃 15 161	891	最大15Cell2列
5	〃 2 20	10	汚水多
6	〃 6 226	23	〃
1~6		(766) 516	
7	甲 2 38	55	
8	〃 4 21	468	
9	〃 8 113	663	最大13Cell2列
10	乙 5 116	240	
11	〃 6 67	153	
12	〃 8 165	94	
13	丙 1 138	85	
14	〃 4 184	16	汚水多
15	〃 7 90	615	
16	〃 8 200	832	2~5 Cell
17	〃 14 206	23	青多
	平均	213	



矢作古川



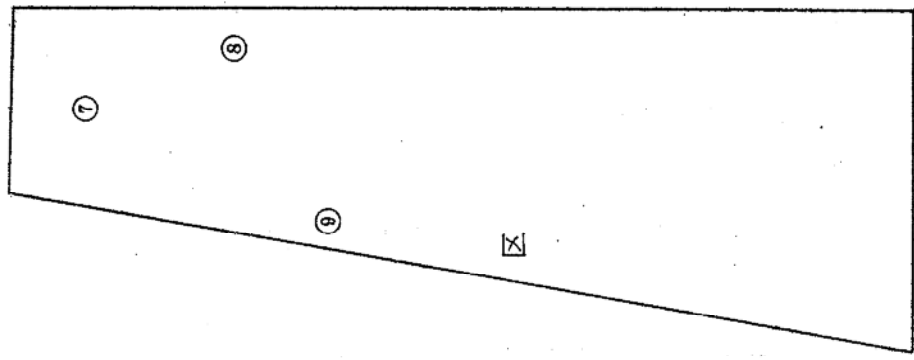
一色町衣崎漁場

真野川

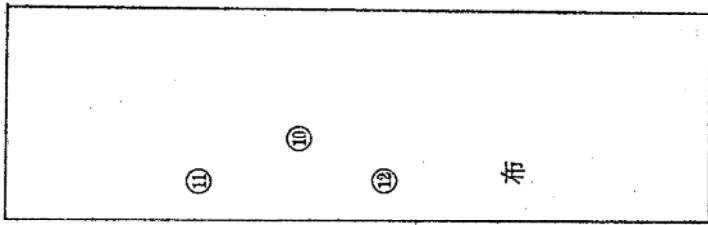


伍保

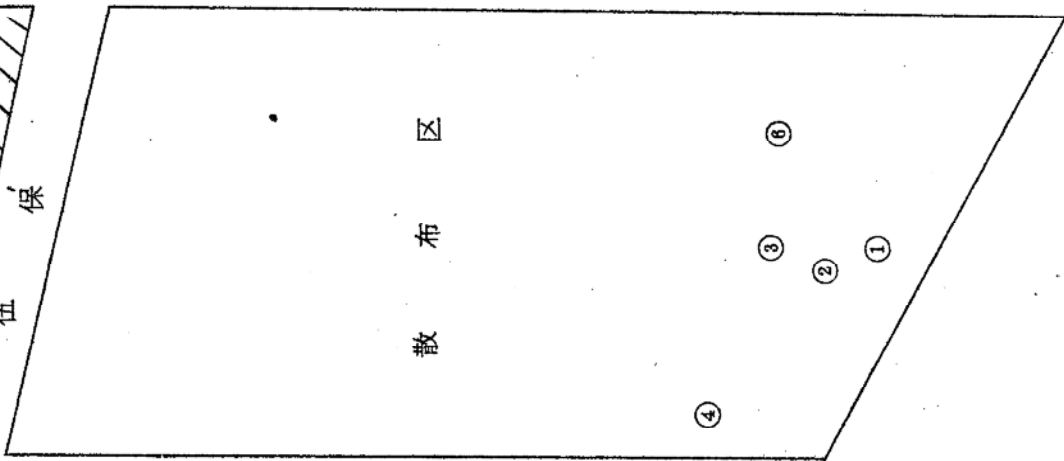
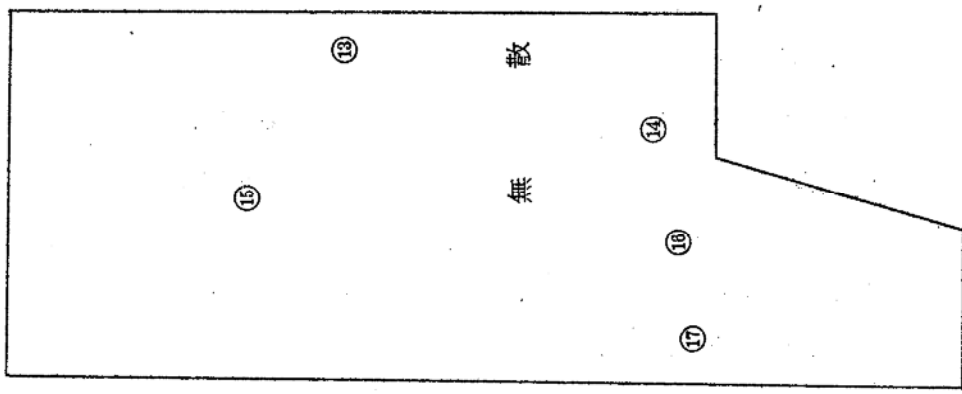
甲



乙



丙



(イ) 常滑市の調査結果

のり二次芽の付着及び成育は、張込みの水位と海況によつて影響を受けている。この二次芽の消長が翌年1～2月ののりの生産と最も大きい関係をもっている。航空施肥の事前事後によりこの二次芽への影響調査を下記により実施した。

A. 調査期日

- 第1回 張込み(10号線)10月26日
取上げ 10月29日
(3日間)
- 第2回 張込み(14号線)10月29日
取上げ 11月1日
(3日間)

B. 調査方法

試験系としてクレモナ1号系3子36本樹脂加工品1.0m5本を1地点1回の張込みとして、各地元研究会に配布し、張込ませた。(調査地点は 図で示し)対照区として、野間、内海地区を選んだ。

C. 調査結果

1. 2回の調査結果は表のとおりである。資料の処理は、各試験系の中央部の5cmを切り100×で検鏡した。平均付着数は1cm当りの芽数であり、各系3回の検鏡を行ない代表値とし、その5本を平均した。細胞の大きさは別に試験系をとり検視される芽を順次100ヶ計数して、細胞数の最多のものを代表値とした。

資料の回収は鬼崎、常滑が不良であつた。結果を検討すると施肥区では大野4区、常滑、阿野、坂井を除き、付着不良と8～10細胞ですでに細胞抜けの芽痛みを生じており、大野3区、大谷、小鈴谷では付着珪藻のアクナンシスの付着が多い系ほど芽が痛み、付着が少なかつた。

野間は全般に付着数は少なかつたが、内海では1号漁場に芽痛み退色がみられた。第2回の施肥後の張込みでは全般に張込み水位が高かつたので細胞の分裂が悪かつた様である。

付着数は常滑阿野沖と対照区の内海2漁場を除いて、増加はみられなかつた。

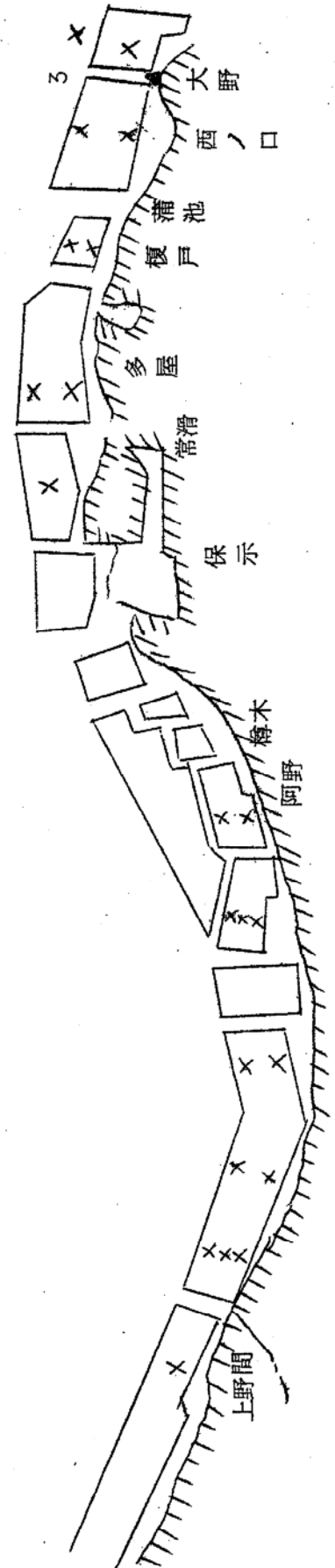
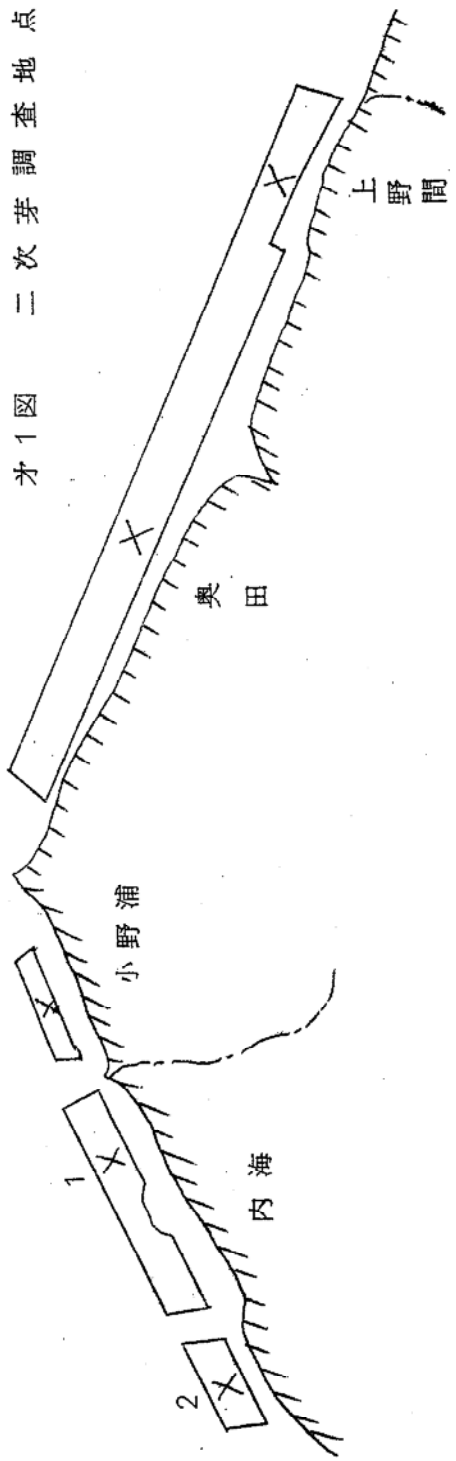
又、芽痛み状況も大谷、小鈴谷地区が最も酷く、施肥により好転していない。当地区でも11月10日後より赤ぐされが発生し、11月下旬まん延の極に達し、大不作

を招いたが、この二次芽調査により判明したことは、第1回、2回共付着が不良で芽痛みを生じていた大野3区大谷、小鈴谷、内海1区等が最も早く赤ぐされが生じており、常滑上野間、坂井が15～20日間遅れて罹患した状況であつた事であり、施肥の効果はこの面で打消されたのではないかと思われる。

組 合		I 回 (10月26～29日)		
		平均付着数	代表細胞数	備 考
大 野	3 区	0～5	4～6～8	芽痛み(一般網)
	4 区	125～150	4～6～10	芽痛み(//)
常 滑	阿 野 高	180～200	4～8～12	色沢良
	// 沖	90～120	3～6～12	//
小 鈴 谷	大 谷 高	0～5	3～4～6	付着珪藻アクナンシス
	大 谷 沖	0～5	3～4～8	多シ
	小 鈴 谷 高	0～5	3～4～8	//
	// 沖	0～5	3～4～8	//
	坂 井 高	0～5	～10～14	細胞正常
	//	90～100	4～6～10	細胞正常色沢良
	// 沖	80～90	4～6～12	//
野 間	上 野 間	20～25	4～6～8	細胞正常色沢良
	奥 田	5～15	4～8～12	//
	小 野 浦	30～40	4～8～12	//
内 海	1	40～60	4～6～8～10	芽痛み有、色やゝ退色
	2	90～100	4～6～8～10	細胞正常色やゝ退色

Ⅱ 回 (10月29~11月1日)		
平均付着数	代表細胞数	備 考
0~5	4~6~8	色沢良芽痛み有
65~80	4~6~10	色沢良
60~75	4~6~8	色沢良
110~150	4~6	〃
0~5	4~6~10	アクナンシス多シ
0~5	4~6~10	〃
0~5	4~7~8	〃
0~5	4~8	〃
15~30	4~6	芽痛みやゝ有
30~40	4~6	〃
30~40	4~6	〃
10~15	4~6~8	細胞正常
0~5	4~6~10	芽痛み有
10~20	4~6	細胞正常
15~35	4~5	芽痛み有 細胞の 色沢無し
250~300	4~8	色やん悪し

才1図 二次芽調査地点



エ. のり養殖生産調査結果

(7) 調査方法

各地とも研究会員4～5名に委託し散布区と無散布区について、その漁場の生産力の標準の場所の網について調査した。

(1) 調査結果

地区名	漁場名	11月の生産				12月の生産				1月の生産							
		調査数	生産枚数	生産金額	1枚当り 生産枚数	1枚当 生産枚数	調査 細数	生産枚数	生産金額	1枚当 生産枚数	1枚当 生産枚数	調査 細数	生産枚数	生産金額	1枚当 生産枚数	1枚当 生産枚数	
一色	衣崎	10	1,220	12,200	122	10.0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		9	1,220	10,460	136	8.8	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	味沢	7	1,160	10,000	166	8.6	10	150	1,350	15	9.0						
		8	1,350	11,180	169	8.2	10	100	850	10	8.5						
	常滑	鬼崎	8	3,400	59,084	425	17.4	11	3,520	54,115	320	15.5	4	920	9,705	230	10.5
		小鈴谷	4	2,000	25,260	500	12.6	4	1,820	28,560	455	15.6	5	1,780	22,950	356	12.8
	野間	4	1,300	19,920	325	15.3	3	930	14,482	310	15.5						